

情報工学演習I

第10回

C++の演習2 (クラスの継承)

授業の予定 (後半)

#	月日	内容	担当者
7	11月13日	C言語の演習4 (ポインタの演算, 列挙型)	内海
8	11月20日	C言語の演習課題	内海
9	11月27日	C++の演習1 (クラス)	岩村
10	12月 4日	C++の演習2 (クラスの継承)	岩村 (代理: 谷川)
11	12月11日	C++の演習3 (仮想関数)	岩村
12	12月18日	C++の演習4 (インライン展開)	岩村
13	1月 8日	C++の演習5 (関数のオーバーロード)	岩村
14	1月15日	C++の演習課題	谷川
15	1月22日	総合演習	谷川

参考書 (追加)

▶ 参考書

- ▶ (D) 「新版 明解C++ 入門編」
 - ▶ 柴田 望洋 (著)



先週紹介しましたが、継承が入っていないので、お勧めできないと思いました

今日の内容

- ▶ 第7回演習課題の解説
- ▶ クラスの継承
- ▶ newとdelete
 - ▶ 配列の動的メモリ確保
 - ▶ オブジェクトのメモリ確保
- ▶ コンストラクタ、デストラクタ

第7回演習課題の解説

第7回演習課題（1）

1. 0から99までの値をとる乱数を1000個発生させ、発生した乱数の0から99までの頻度を計算し、出力するプログラムを作成せよ。頻度の計算は要素が100個ある配列を使って行うこと。また、配列の値の変更は、ポインタ演算をして行うこと。
 - ▶ 頻度：0が2回，1が2回出現
 - ▶ 配列を用意して，乱数の値に応じて頻度を計算
 - ▶ 配列のアクセスの方法
 - ▶ × `hist[r]++;`
 - ▶ ○ `*(hist + r)++;` など， []演算子を使わない

第7回演習課題（2）

2. 授業支援システムにあるtext.txt をダウンロードし、このテキストファイルから整数のデータを読みこんで動的に確保したメモリに格納し、値の平均、分散、中央値、最頻値を求めるプログラムを作成せよ。ファイルの形式は、はじめの1行目に整数の数が書かれており、次の行以降は空白区切りの整数のデータが列挙されている。
- ▶ text.txt の1行目の値を読み込む
 - ▶ 1行目の値をもとにメモリをmalloc で確保し、値を読み込む
 - ▶ 平均値などの計算は第5回演習課題の課題2の関数を利用

第7回演習課題 (3)

3. 曜日を列挙型で表現し, `switch` 文を使って列挙型の曜日ごとに, 自己の時間割を示すプログラムを作成せよ.
 - ▶ `enum` 型で曜日を以下のように定義
 - ▶ `enum week { sunday, monday, tuesday, wednesday, thursday, friday, saturday };`
 - ▶ `enum` 型変数を分岐の式として利用

第7回演習課題（4）

4. 3次多項式 $x^3 - 168x^2 + 8621x - 129978$ を $(x - a)(x - b)(x - c)$ の形に因数分解したときの a, b, c の値を計算し，出力するプログラムを作成せよ．ただし $0 < a < b < c$ とし， a, b, c は整数となる．
- ▶ 3次多項式が0 になる x が a, b, c となる
 - ▶ $x=1, 2, \dots$ と代入し，3次多項式が0 になる x を小さいものから a, b, c とすればよい

クラスの継承

電卓プログラムの作成

- ▶ 以下では、電卓の振る舞いをするクラスを作って、電卓を実現
 - ▶ 加減算対応型計算機 (ex6_calculator1.cc)
 - ▶ クラスCalculator1を定義
 - 足し算と引き算に対応
 - 数値のクリアができる
 - 現在の値を返すことができる
 - ▶ 四則演算対応型計算機 (ex7_calculator2.cc)
 - ▶ クラスCalculator2を定義
 - クラスCalculator1の機能に加えて、かけ算と割り算に対応

クラスの継承

クラスの継承とは

- ▶ 既存のクラスの機能を引き継ぎ、一部のみを変更できる機能
 - ▶ 新しいデータメンバの追加
 - ▶ 新しいメンバ関数の追加
 - ▶ 既存のデータメンバの上書き
 - ▶ 既存のメンバ関数の上書き
- ▶ メリット
 - ▶ 過去に作ったクラスのインタフェース（関数の引数、戻り値の仕様）を変更することなく、機能を追加できる

プログラムの変更を最小限にできる

クラスの継承とは

▶ 用語

- ▶ 基本クラス
 - ▶ 継承されるクラス（この例ではCalculator1）
- ▶ 派生クラス
 - ▶ 継承するクラス（この例ではCalculator2）

計算機（加減算のみ）

ex6_calculator1.cc

```
#include <iostream>
using namespace std;

class Calculator1 {
private:
    double val; // 計算機内部で記憶して
                // いる値

public:
    Calculator1() { // コンストラクタ
        clear(); // 値のクリア
    }
};
```

コンストラクタの中で関数を呼び出すこともできる

```
void clear() { // 値のクリア
    val = 0;
}

double add(double val2) { // 足す
    val += val2;
    return val;
}

double sub(double val2) { // 引く
    val -= val2;
    return val;
}

// 現在の値を返す
double get_val() {
    return val;
}
};
```

計算機（加減算のみ）

続き

ex6_calculator1.cc

```
int main() {
    string ope; // コマンド入力用
    double n; // 数値入力用
    Calculator1 calc; // 計算機のオブジェクトを作る

    cout << "Input an operation and a number separated by space (ex.
    ¥" + 10¥" to add 10)." << endl
        << "Input ¥" = ¥" to show the current value." << endl
        << "Input ¥"clear¥" to clear." << endl
        << "Press Ctrl+c to quit." << endl;
    cout << "Current value: " << calc.get_val() << endl;
}
```

計算機 (加減算のみ) 続き

ex6_calculator1.cc

```
while(1) { // 無限ループ

    cin >> ope; // キーボードからコマンドを入力する

    if (ope=="+") { // コマンドが "+" か調べる
        cin >> n; // キーボードから数字を入力する
        cout << "Result: " << calc.add(n) << endl;
        continue; // 無限ループの最初に戻る
    }
    if (ope=="-") { // コマンドが "-" か調べる
        cin >> n; // キーボードから数字を入力する
        cout << "Result: " << calc.sub(n) << endl;
        continue; // 無限ループの最初に戻る
    }
}
```


計算機 (加減算のみ) 続き

ex6_calculator1.cc

```
if (ope=="=") { // コマンドが "=" か調べる
    cout << "Current value: " << calc.get_val() << endl;
    continue; // 無限ループの最初に戻る
}
if (ope=="clear") { // コマンドが "clear" か調べる
    calc.clear();
    cout << "Result: " << calc.get_val() << endl;
    continue; // 無限ループの最初に戻る
}
cout << "Invalid command! ignored." << endl;
}

return 0;
}
```

実行例

```
$ ./a.exe
```

Input an operation and a number separated by space (ex. "+ 10" to add 10).

Input "=" to show the current value.

Input "clear" to clear.

Press Ctrl+c to quit.

Current value: 0

```
+ 10
```

Result: 10

```
+ 100
```

Result: 110

緑色の文字はユーザー
が入力したものを表す

実行例 (続き)

- -50

Result: 160

- 1000

Result: -840

clear

Result: 0

+ 10

Result: 10

=

Current value: 10



計算機 (四則演算対応)

ex7_calculator2.cc

```
#include <iostream>
using namespace std;

class Calculator1 {
protected: // 継承したクラスと共有する
           // ために, protectedにする
    double val; // 計算機内部で記憶して
               // いる値

public:
    Calculator1() { // コンストラクタ
        clear(); // 値のクリア
    }
};
```

ここだけ変更

クラスCalculation1は
ほぼそのまま

```
void clear() { // 値のクリア
    val = 0;
}
double add(double val2) { // 足す
    val += val2;
    return val;
}
double sub(double val2) { // 引く
    val -= val2;
    return val;
}
// 現在の値を返す
double get_val() {
    return val;
}
};
```

続き

計算機 (四則演算対応)

ex7_calculator2.cc

```
class Calculator2 : public Calculator1 {  
public:  
    // 掛ける  
    double mul(double val2) {  
        val *= val2;  
        return val;  
    }  
    // 掛ける  
    double div(double val2) {  
        val /= val2;  
        return val;  
    }  
};
```

クラスCalculation1を継承した
クラスCalculation2を新たに追加

計算機（四則演算対応）

ex7_calculator2.cc

```
int main() {  
    string ope; // コマンド入力用  
    double n; // 数値入力用  
    Calculator2 calc; // 計算機のオブジェクトを作る
```

クラスCalculator1のオブジェクトから
クラスCalculator2のオブジェクトに変更

```
    cout << "Input an operation and a number separated by space (ex.  
    ¥" + 10¥" to add 10)." << endl  
        << "Input ¥" = ¥" to show the current value." << endl  
        << "Input ¥"clear¥" to clear." << endl  
        << "Press Ctrl+c to quit." << endl;  
    cout << "Current value: " << calc.get_val() << endl;
```

計算機 (四則演算対応)

ex7_calculator2.cc

```
while(1) { // 無限ループ

    cin >> ope; // キーボードからコマンドを入力する

    if (ope=="+") { // コマンドが "+" か調べる
        cin >> n; // キーボードから数字を入力する
        cout << "Result: " << calc.add(n) << endl;
        continue; // 無限ループの最初に戻る
    }
    if (ope=="-") { // コマンドが "-" か調べる
        cin >> n; // キーボードから数字を入力する
        cout << "Result: " << calc.sub(n) << endl;
        continue; // 無限ループの最初に戻る
    }
}
```

計算機（四則演算対応）

ex7_calculator2.cc

```
if (ope=="*") { // コマンドが "*" か調べる
    cin >> n; // キーボードから数字を入力する
    cout << "Result: " << calc.mul(n) << endl;
    continue; // 無限ループの最初に戻る
}
if (ope=="/") { // コマンドが "/" か調べる
    cin >> n; // キーボードから数字を入力する
    cout << "Result: " << calc.div(n) << endl;
    continue; // 無限ループの最初に戻る
```

クラスCalculation2で新たに加わった
かけ算、割り算の処理を追加

計算機 (四則演算対応)

ex7_calculator2.cc

```
if (ope=="=") { // コマンドが "=" か調べる
    cout << "Current value: " << calc.get_val() << endl;
    continue; // 無限ループの最初に戻る
}
if (ope=="clear") { // コマンドが "clear" か調べる
    calc.clear();
    cout << "Result: " << calc.get_val() << endl;
    continue; // 無限ループの最初に戻る
}
cout << "Invalid command! ignored." << endl;
}

return 0;
}
```

クラスの継承で気をつけること、その1

- ▶ 基本クラスのメンバが派生クラスからアクセスできること

ex6_calculator1.cc

```
class Calculator1 {  
private:  
    double val; // 計算機内部で記憶している値
```



ex7_calculator2.cc

```
class Calculator1 {  
protected: // 継承したクラスと共有するために,  
protectedにする  
    double val; // 計算機内部で記憶している値
```

派生クラスからアクセスできるようにprotectedに変更

クラスの継承で気をつけること、その1

続き

- ▶ 基本クラスのメンバのアクセス制御
 - ▶ public
 - ▶ クラス外からアクセス可能
 - ▶ private
 - ▶ クラス外からアクセス可能
 - ▶ protected
 - ▶ 基本的にはprivateと同じだが、派生クラスからはアクセス可能

クラスの継承で気をつけること、その2

▶ 基本クラスのアクセス制御

```
ex7_calculator2.cc
```

```
class Calculator2 : public Calculator1 {
```

クラスCalculation1を
継承した
クラスCalculation2を
新たに追加

- ▶ この「**public**」の部分によって、継承の挙動が変わる
 - ▶ **public**: 基本クラスの公開メンバが派生クラスの**公開メンバ**として扱われる
 - ▶ **private**: 基本クラスの公開メンバが派生クラスの**非公開メンバ**として扱われる
- ▶ 何も指定しないときは、**private**として扱われる
- ▶ わかりやすさのために、明示的に指定する方がいい

newとdelete (配列の動的メモリ確保)

配列の動的メモリ確保・解放

- ▶ C言語の場合
 - ▶ mallocでメモリの確保
 - ▶ freeでメモリの解放

メモリの容量をsizeof演算子で計算しないといけないし、キャストも必要。
面倒だった

ex8_malloc.c

```
#include <stdlib.h> /* mallocを使うときのお約束 */  
  
int main() {  
    int *n;  
    n = (int *)malloc(sizeof(int)*10); /* int型の変数10個分のメモリ確保 */  
    free(n); /* 確保したメモリの開放 */  
    return(0);  
}
```

配列の動的メモリ確保・解放

▶ C++の場合

- ▶ newでメモリの確保
 - ▶ 配列の大きさが1のときは、
n=new int;
とすれば良い
- ▶ delete []でメモリの解放

sizeof演算子もキャストも不要

重要：配列のメモリ確保のときは、[]が必要

ex9_new_array.cc

```
int main() {  
    int *n;  
    n = new int[10]; // int型の変数10個分のメモリ確保  
    delete [] n; // 確保したメモリの開放  
    return(0);  
}
```

newとdelete (オブジェクトのメモリ確保)

ex10_new_obj.cc

```
#include <string> // stringを使うために必要
#include <iostream> // 入出力に必要な
using namespace std; // お約束

class Account {
public:
    string name; // 名前
    int balance; // 残高
};

int main() {
    Account *suzukip;
    suzukip = new Account(); // Account型のオブジェクトを作成

    suzukip->name = "鈴木龍一"; // 鈴木さんの名前
    suzukip->balance = 123000; // 鈴木さんの残高
    cout << suzukip->name << "様の残高は" << suzukip->balance << "円で
    す." << endl;

    delete suzukip; // 確保したメモリの開放
    return 0;
}
```

クラスのメモリ確保

- ▶ newでメモリの確保
 - ▶ まず、クラスのポインタを宣言
`Account *suzukip;`
 - ▶ newによるオブジェクトの作成
`suzukip = new Account();`

これはコンストラクタに渡す引数がない場合

構造体と同じ

- ▶ クラスのポインタ
 - ▶ メンバへのアクセスは”.”の代わりに、”->”を使う
 - ○ `suzukip->balance`
 - ○ `(*suzukip).balance`
 - × `suzukip.balance`

ポインタに*を付けると、`Account*`型から`Account`型になるので

- ▶ deleteでメモリの解放

重要：オブジェクトのときは、`[]`をつけない

コンストラクタ、デストラクタ

コンストラクタとデストラクタ

- ▶ クラスの特別なメンバ関数
 - ▶ コンストラクタ
 - ▶ オブジェクトが作られるときに呼ばれる関数
 - ▶ デストラクタ
 - ▶ オブジェクトが破棄されるときに呼ばれる関数

クラス内でのメモリ確保例

ex11_constructor.cc

```
#include <iostream>
using namespace std;

// オブジェクト作成時に動的にメモリを確保し，破棄時にメモリを開放するクラス
class dyn_mem {
public:
    int *array; // 配列用のポインタ
    int size; // 配列の大きさ

    dyn_mem() { // デフォルトコンストラクタ
        size = 0; // 配列のサイズが指定されないときは，配列のメモリを確保しない
    }
}
```

確保していない配列のメモリ開放を避けるために，sizeを0にしておく

クラス内でのメモリ確保例

ex11_constructor.cc

```
dyn_mem(int _size) { // コンストラクタ
    cout << "Constructor is called." << endl;
    size = _size;
    cout << "Memory is allocated." << endl;
    array = new int[size]; // 配列のメモリ確保
}
~dyn_mem() { // デストラクタ
    cout << "Destructor is called." << endl;
    if (size!=0) { // 配列にメモリが確保されている場合のみ, メモリを開放する
        cout << "Memory is released." << endl;
        delete [] array;
        size = 0;
    }
}
};
```

続き

クラス内でのメモリ確保例

ex11_constructor.cc

```
int main() {
```

ブロック

```
{  
    cout << "A" << endl;  
    dyn_mem dm(10); // オブジェクトの作成(大きさが10の配列の  
メモリを確保)  
    cout << "B" << endl;  
}
```

```
    cout << "C" << endl;
```

```
    return 0;
```

```
}
```

ブロック内で宣言された変数
(オブジェクト) は、ブロック
が終わると破棄される

実行例

\$./a.exe

--A--

Constructor is called.

Memory is allocated.

--B--

Destructor is called.

Memory is released.

--C--

オブジェクトが作られて、
メモリが確保された

オブジェクトが破棄され
て、メモリが解放された

演習課題

第10回演習課題（1）

- ▶ 1. 以下の仕様を満たすプログラムを作れ
 - ▶ 以下の仕様を満たすクラスを持つ
 - ▶ 第9回演習課題（1）で作成したクラスを継承する
 - ▶ 数学、理科、英語に加えて、国語の点数を保存することができる
 - ▶ 合計4教科の点数を変更（上書き）できる関数と照会できる関数がある
 - ▶ 合計4教科の点数の平均を計算して返す関数がある
 - ▶ 上記のクラスを用いて、2人分のデータ（名前、4教科の点数）を順次コマンドラインから入力できる
 - ▶ 全員分の情報を入力した後、一人ずつ名前と平均点を表示する

第10回演習課題（2）

- ▶ 2. 以下の様に分割コンパイルを実現せよ
 - ▶ 第9回演習課題（2）で作成したプログラムを以下の3つに分割する
 - ▶ main関数を含むファイル
 - ▶ クラスのヘッダファイル
 - ▶ クラスのメンバ関数の定義を含むファイル
 - ▶ コンパイルするコマンドをテキストファイルに書く
 - ▶ 例：
g++ -c ex5_main.cc
g++ -c ex5_coordinate.cc
g++ ex5_main.o ex5_coordinate.o
 - ▶ ソースファイル（3つ）とコンパイルするコマンドを提出

第10回演習課題（3）

- ▶ 3. 以下のプログラムを作成する
 - ▶ 引数を2つ取る
 - ▶ 1つはファイル名
 - ▶ もう一つは、キーワード
 - ▶ ファイルの中にキーワードが何回出現するかを数える

第10回演習課題 (4)

- ▶ 4. 以下のプログラムを作成する
 - ▶ 以下の仕様を満たすクラスを作れ
 - ▶ オブジェクト作成時に整数 k を引きとし、`new`を使って $(k+1)*(k+1)$ の2次元配列を確保する
 - ▶ オブジェクト破棄時に`delete`でメモリを解放する
 - ▶ 任意の座標 (x,y) に値を代入できる
 - ▶ 任意の座標 (x,y) の値を表示できる

第10回演習課題 (4) 続き

- ▶ プログラムを実行すると、キーボードから整数 k を入力することを求められる
- ▶ この k を引数として、前述のクラスのオブジェクトを作る
- ▶ $(0,0)$ から $(k-1,k-1)$ までには、乱数で適当な値を入れる
- ▶ 列毎の和を $(k,0)$ から $(k,k-1)$ に入れる
- ▶ 行毎の和を $(0,k)$ から $(k-1,k)$ に入れる
- ▶ $(0,0)$ から $(k-1,k-1)$ までの合計を (k,k) に入れる
- ▶ $(0,0)$ から (k,k) までを出力した後、オブジェクトを破棄する

$k=4$ のとき

$(0,0)$	$(0,1)$	$(0,2)$	$(0,3)$	$(0,4)$
$(1,0)$	$(1,1)$	$(1,2)$	$(1,3)$	$(1,4)$
$(2,0)$	$(2,1)$	$(2,2)$	$(2,3)$	$(2,4)$
$(3,0)$	$(3,1)$	$(3,2)$	$(3,3)$	$(3,4)$
$(4,0)$	$(4,1)$	$(4,2)$	$(4,3)$	$(4,4)$

行毎の和

合計

列毎の和

提出に関して

- ▶ 提出するもの
 - ▶ ソースファイル(.ccまたは.cpp ファイル)
 - ▶ ファイル名はkadai1204_学籍番号_課題番号.cc (.cpp)
 - ▶ (Visual Studioの場合)
ファイル名はkadai1204_学籍番号_課題番号_v.cc (.cpp)
 - ▶ 実行結果の出力と講義に関するコメント
 - ▶ .txt ファイルで、学籍番号、氏名を含む
 - ▶ ファイル名はreport1204_学籍番号.txt とする

提出に関して（続き）

▶ 提出期限

- ▶ 12月18日（水） 00:00

▶ 提出方法

- ▶ 授業支援システムから提出

▶ 注意点

- ▶ ファイル名の命名規則が間違っているものは採点しない
- ▶ コンパイルの通らないものは採点しない